



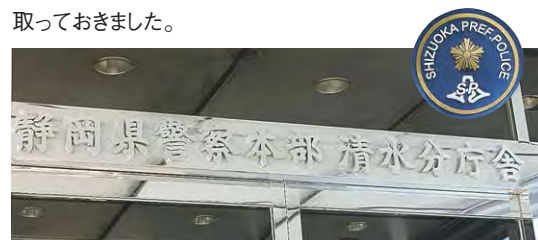
小林理和 Riwa Kobayashi

静岡県警察本部交通部交通機動隊直轄隊 女性白バイ隊「フジウイング」所属
(2000年3月教育学部卒業)

—警察官という職業を選んだきっかけは?

幼い頃から白バイに憧れていたんです。マラソンの先導や取り締まりをしている姿がかっこよくて。それで「白バイに乗るために警察官になろう」と。でも、警察官になったからといって必ず乗れるとは限りません。警察官の職務について調べ、白バイに乗れなくてもこの仕事ならやりがいを持って一生やっていけると思ったので決心しました。

大学時代には、警察官になった時に白バイ隊に入りたいという想いをアピールできるように、大型二輪の免許を取っておきました。



—仕事のやりがいや、逆に大変なところは?

交通機動隊員の仕事の8割は取り締まりです。取り締まりの反則金って、誰でも払うのが嫌なものですよね。それでも「ありがとうございます。気をつけます」とか「お姉さんでよかった」とニコニコしながら言ってくれる人もいます。そんな時は心から警察官になってよかったと思います。警察官の仕事は、人々の安全を守ること。人間相手の仕事なので、いかに人とうまくコミュニケーションを取れるかが大切です。考えてみると、大学の授業で、人前で発表したりみんなで議論を繰り返したりしたことが、役に立っているかもしれませんね。

ずっと憧れていたこの仕事。
やめたいと思ったことは一度もない。

大変なこと、というよりも困るのは「女性の警察官の話は聞けない。男性の上司を呼べ」と言われる時。100人に1人か2人はそういう人がいるんです。そんな時は仕方がないので、近くにいる先輩に応援に来てもらいます。あとは、ずっと外にいるので日焼けすることかな(笑)。

白バイに乗るのは肉体力労働。特に夏や冬はつらいんです。でも、白バイ隊員の誇りがありますから、外では絶対に疲れた顔を見せません。いつも颯爽と走るよう心がけています。白バイは交通安全のシンボル。かっこ悪い姿は見せられないですよ。

—後輩にメッセージをお願いします。

私の好きな言葉は「夢はかなえるためにある」大学卒業時の文集に、私の10年後として「白バイに乗る。巡査部長になる」と書いたんです。そして今、夢がかなっている。皆さんも何かしら夢や目標があると思います。それを実現できるように、少しずつ自分ができることをやっていく。そうすれば、いつか必ずかなうと思いますよ。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。
仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたプライベートの話まで。
私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤

OB&OG紹介

—教師という職業を選んだきっかけは?

中学生の時の出会いが大きいですね。3年時の担任が、嬉しいことがあっても悲しいことがあっても、とにかくよく泣く男の先生だったんです。初めは「何だ、この先生?」と反抗心を持ちましたが、卒業が近づくにつれ「自分たちを大切にしてくれていたんだ」ということに気づいたんです。長い目で子どもを見て、一緒に付き合いながら成長させていく…自分もそんな先生になりたい。そして現在、私は3年生の担任と生徒会、サッカー部の顧問をしています。

—思い描いていた教師像と現実とのギャップは?

子どもの立場から見ると、教師というのは、学校で生徒

一方で教師は、担任、授業、部活動、生徒会、保護者や地域との交流…と一人でいろいろな顔をもたなければなりません。多くの役割を並行して担う必要があるんです。大



学時代、様々な活動に首を突っ込んでいたので、その当時の経験が、一人多役を求められる今の仕事に活かされているように思います。



杉田泰一 Taiichi Sugita

東広島市立黒瀬中学校
(2000年3月大学院学校教育研究科修了)

一人多役が求められる教師。
一番の喜びは生徒の言葉。

だけを相手にしているように見えるでしょう。しかし、実際は違うんです。生徒は学内外で様々な集団に所属しているので、そういった状況も把握しておく必要があります。また、保護者と積極的にコミュニケーションを取り、良好な関係を築くことも重要になります。つまり、トータルの中で生徒のことを考えないといけないんですね。



—やりがいを感じる瞬間は?

私は生徒に対して少し厳しく指導しているので、自分の本当の気持ちが伝わっているのかどうか不安になることもあります。しかし、子どもたちが卒業の時期にくれる手紙を見ると、確かにそれが伝わっているのを感じて涙が出てしまいますね。一番嬉しかったのは、教師になりたての頃に「先生はいろいろな面で厳しかったけれど、その中には愛がありました」という感謝状をもらったことです。

教育は、すぐに成果が出るものばかりではありません。私は、生徒が今持っている夢を実現できるように手助けをしていきたいと思っています。そして、大人になった時にふらっと訪ねて来て「夢をかなえました」と生き生き語ってくれたら嬉しいですね。

取材を終えて



幼い頃には誰にでも、まっすぐに憧れていた夢があったと思います。その夢を持ち続け、実現させるために、やるべきことをやってこられた小林さん。「夢は、かなえるためにある」という言葉がびったりくる方で、先輩のその一言は強く私の心に残りました。そして、警察官というハードな仕事を「やめたいと思ったことは?」という質問に対して「ないよ。大変なことはあるけど、やめたいと思ったことは一度もない」と即答される姿に、カッコイイな~と思った私。とにかく感動しっぱなしの取材でした。

取材・記事 / 教育学部4年 末永 紗央里



私たちにとって、教師という職業はとても身近な存在ですが、実は知らないことが随分あるようです。今回は、教師の目線からのお話を聞かせていただき、今まで学生という立場では感じることもなかった一面を知ることができました。また、一つの考えに凝り固まらず、様々なことに挑戦して広い視野を持つことが、社会に出るためには必要ということを教わりました。生徒会の話、部活の話などを通して、子どもたちに対する熱い想いを伝えてくれた杉田さん。お話を聞いていると、私自身も将来への希望がわいてきました。

取材・記事 / 法学部3年 河野 真帆